

第2回那覇空港技術検討委員会の資料及び審議内容の意見募集に寄せられたご意見

分類	項目	寄せられた意見例
滑走路増設が必要とする意見	1,310m案の採択	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拡張には地元、周辺住民のコンセンサスが欠かせない為、1,310m案が現時点で最適。</li> <li>・沖縄県知事及び地元市長が主張する 1,310m案を尊重していただきたい。</li> <li>・能力、騒音の面から 1,310mが望ましい。</li> </ul>
	安全面	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空港施設は災害時に他から援助を受け入れる際に重要な役割を担うことになる。</li> <li>・災害時のためにも滑走路1本では不安。早急に2本目を建設すべき。</li> <li>・滑走路が1本では事故等の場合に対応できない。2本は必要。</li> <li>・2本目の滑走路が整備される事で、混雑解消や災害等緊急時に対応できる。</li> </ul>
	県経済発展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・沖縄県において観光産業の振興は非常に大切な課題であり、那覇空港の整備は必要。</li> <li>・国内外より物資や観光客が増えることで経済効果が期待できる。</li> <li>・滑走路増設は観光立県として沖縄県が発展していく上で、必要不可欠だと思う。</li> <li>・B/Cの分析結果はあらゆる場面において県民にアピールすべき。</li> </ul>
	210m案の除外について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の要望により 210m案をはずしたことは評価できる。</li> <li>・1,310m、930mの2案を意見収集の対象とした事は県民への良き配慮といえる。</li> <li>・210m案に対する地元からの意見が受け入れられたことについては良い結果だと認識している。</li> <li>・最も工費が安い 210m案を「精密に」検証すべき。</li> </ul>

滑走路増設に当 って重視・配慮す べき点	周辺の騒音対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増設滑走路の運用に関して、ラッシュ時以外（早朝、深夜）は騒音による影響軽減のため、出来る限り沖側の滑走路を使用するのが望ましい。</li> </ul>
	環境への配慮	<ul style="list-style-type: none"> <li>・影響を受ける自然環境に対する出来る限りのミチゲーションを併せて検討すべき。</li> <li>・世界的にも貴重なサンゴ礁の価値について、沖縄の関係者と県外からの観光客の期待とは大きなギャップがある。最大限サンゴ礁の保護をはかることが必要。特に、滑走路長2700mが必要なのは、一部の機材に限られるので、その機材は現滑走路を用いることにして、増設滑走路を短くすべき。また、誘導路を大嶺崎の内に設置すべき。</li> </ul>
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自衛隊の動向について、スクランブル発進と航空機緊急事態を同等に比較し、対応説明をしているが、自衛隊のスクランブル発進は、自衛隊の存続理由である、位置的な関係で常時あること。これと航空機緊急事態を同等に比較し、緊急時の対応として回答していることは乱暴な回答である。</li> <li>・PIの情報提供が沖合展開へ誘導している。</li> <li>・意見募集を行うにあたっては、ポイントを要約した、一般市民にもわかりやすい資料の公開があるとよい。</li> <li>・大嶺崎の改変を行わない場合、沖側に滑走路を増設すると、標高差のため沖側の滑走路の一部が見えなくなる。新たな管制塔の必要性について、施設計画段階まで待つのではなく、構想段階でも何らかの形で言及してはどうか。</li> <li>・「公共事業の構想段階における計画策定プロセスガイドライン」の趣旨を踏まえたきめ細かい対応をされていることは評価されるべき。同ガイドラインの最初の適用例として後のプロジェクトの手本となるような成果を得られるよう期待する。</li> </ul>